

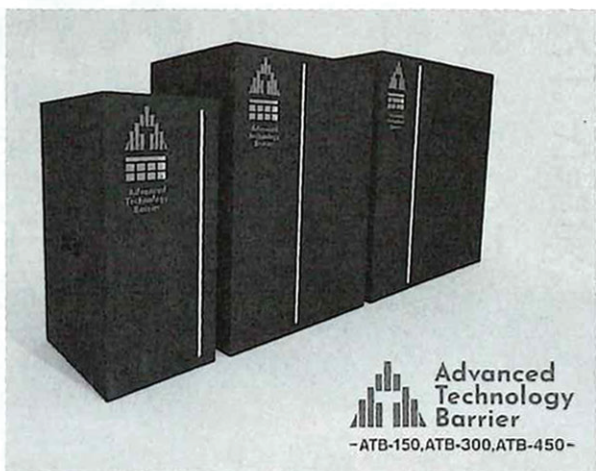
地下シェルター会議に参画

札幌の企業が 開発した「有 事換気装置」

大規模災害の発生や安全保障環境の緊迫化により、日本でも近年、地下シェルター整備の必要性が高まっている。国の国土強靱化計画を進める一般社団法人「レジリエンスジャパン推進協議会」の地下シェルタ

ーの検討ワーキンググループなども立ちあがっている。同グループに道内で唯一参画しているのが、空調部材などを手掛ける「ヤブシタ」(札幌)グループの「プロテクトアーツ」だ。

同社は8月、地下シェルター用換気装置「ATバリア」を開発。名古屋大学の技術協力のもと、特殊なフィルターが内臓されている。「核物質、毒ガス、細菌・科学兵器を除去することが可能です。地下シェルター用の換気装置を開発している国内企業はまだありません。市場は今後、広がっていくと思われます」と小熊正輝社長は語る。(竹内)



ATバリアは8人用・315万円～
(税抜き)